

アクセス・フォー・オールの2つのキーワード

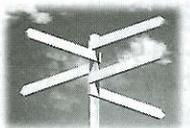
デリバリー

- ・ 一方的に「サポートする」のではなく、多様な機会や選択肢を確実に届ける。
- ・ サッカー界の活動が実際にサッカーに届かなければ、そして繋がらなければ意味がない。



行動指針

- ・ 行動指針を示すことで、サッカーに関わる人々が、サッカーにアクセスできていない人たちがいることに気づく。
- ・ その高まった気づきをもって、日常のサッカー活動を行う。



■表5 アクセス・フォー・オール宣言

グラスルーツからエリートまで誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる多様な「機会」と「選択肢」を持続的に確実に届けます。

上記を実現するために、

- (1)日本サッカー協会は、各リーグや9地域47都道府県サッカー協会、および各種加盟団体と共に、サッカーを愛するすべての人が全国の日常でサッカーにアクセスし、サッカーを楽しむ挑戦できることをサッカーファミリーの「あたりまえ」にしていきます。
- (2)サッカーを通じて、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン(DEI)※を推進し、日本のスポーツ文化に変化を起こします。
※ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公平性)、インクルージョン(包括性、受容性)、3つの頭文字をとって「DEI」とする

●ロゴマーク



- ・ コンセプト: 全ての色を構成する光の三原色(赤・緑・青)を使用することにより多様性を表現
- ・ マーク: インフィニティ(無限大)をモチーフに、サッカーボールを通して人と人が関わり合うイメージ、平等性、無限の未来を表現。また、重なり合う「A(人)」は、JFAが2022年7月に策定したナショナル・フットボール・フィロソフィー「Japan's Way」に掲げる日本型ダブルピラミッドの意味が込められている。
- ・ ロゴタイプ: 頭文字の「A」を漢字の「人」で表現することで、誰もが平等にサッカーを楽しむことを表現

22年、アルゼンチン人の指導者から茨城県F Aに問い合わせがあった。「C級コーチ養成講習会に参加したい」という彼は、日本語での会話はできるが、漢字の読み書きは厳しいということとだった。原田精一郎F Aコーチは、「それでも何とか協力してやっていこうと受け入れ、参加してもらった」と語る。講義中は分からない部分がないか都度確認し、読み書きが必要な筆記試験などでは特別に平仮名だけの問題を作った。

外国人に限らず、また、指導者養成講習会の場に限らず、全ての人が何の支障もなくサッカー活動に参加できる環境を届けていく必要がある。

第2部・アクセス・フォー・オール

「JFAの取り組み」

「みんなのサッカー」を当たり前へ

JFAは23年3月、アクセス・フォー・オールに関するワーキンググループを立ち上げた。LGBTQや障がい、貧困、外国人、高齢者などこれまで日本サッカー界が十分にカバーできていなかった領域を含め、多様な人々がサッカーとつな

がることのできる環境づくりを実現するため、情報共有と議論を重ねてきた。そして今年4月、日本サッカー界の指針として「アクセス・フォー・オール宣言」を発表した(表5)。この宣言は、多様な人々がサッカーを楽しむ、挑戦できることを目指すサッカー界の行動指針だ。

「アクセス・フォー・オール」のキーワードは「デリバリー」と「行動指針」。アクセス・フォー・オールワーキンググループのリーダーを務める日比野暢子氏は「(いくらサポーターが整っていても)必要としている人に届けられなければ意味がない。サポートするのではなく、デリバリー(届ける)という考え方が大事」と強調する。そして行動指針に従って、サッカーに関わる全ての人

が「サッカーにアクセスできない人」の存在に気づき、行動を起こすことを求めていく。それによって誰もがサッカーにアクセスできる環境を当たり前ものにし、サッカーをみんなのものにしていく。それがアクセス・フォー・オール宣言が目指すところだ。

〔茨城県F Aの活動事例〕

外国人がC級講習会に参加 日本の指導者に刺激

22年、アルゼンチン

人の指導者から茨城県F Aに問い合わせがあった。「C級コーチ養成講習会に参加したい」という彼は、日本語での会話はできるが、漢字の読み書きは厳しいということとだった。原田精一郎F Aコーチは、「それでも何とか協力してやっていこうと受け入れ、参加してもらった」と語る。講義中は分からない部分がないか都度確認し、読み書きが必要な筆記試験などでは特別に平仮名だけの問題を作った。

外国人に限らず、また、指導者養成講習会の場に限らず、全ての人が何の支障もなくサッカー活動に参加できる環境を届けていく必要がある。

20年、アルゼンチン人の指導者から茨城県F Aに問い合わせがあった。「C級コーチ養成講習会に参加したい」という彼は、日本語での会話はできるが、漢字の読み書きは厳しいということとだった。原田精一郎F Aコーチは、「それでも何とか協力してやっていこうと受け入れ、参加してもらった」と語る。講義中は分からない部分がないか都度確認し、読み書きが必要な筆記試験などでは特別に平仮名だけの問題を作った。